

1 6 章 京都大学／グローバル COE 「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」における「アジア版エラスムス・パイロット計画」

1. 京都大学グローバル COE プログラム「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」の概要²⁷

本プロジェクトは、京都大学大学院文学研究科に拠点を置くグローバル COE プログラムで、少子化や超高齢化など現代における急激な社会変化を「親密圏と公共圏の再編成」という観点から分析・解明する新しい学問分野を開拓し、実践的政策的提言を行うと共に、この新分野の研究を担う次世代研究者を養成することを目的としている。本プログラムの主要な取り組みは、国際共同研究、および人材育成の2点で、国際共同研究については、アジア地域に焦点を当て、アジア地域に共通する超低出生率、急速な高齢化、家族主義的福祉の限界、国際移動の女性化などの問題について、国際共同研究を実施し、21世紀アジア社会の生活と人的再生産を支えるための親密圏と公共圏の再構築について提案することを目指している。人材育成については、アジア及び欧米地域の海外パートナー拠点との連携による学際教育プログラムの実施、国内外の行政機関やNPO/NGOにおけるインターンシップなどを通して、「親密圏と公共圏の再編成」という課題解決に取り組む次世代の人材を育成することを目的としている。そして、次世代研究者育成の核となる取り組みが、「アジア版エラスムス・パイロット計画」である。以下、「アジア版エラスムス・パイロット計画」の取り組みについて検証する。

2. 「アジア版エラスムス・パイロット計画」の概要

グローバル COE プログラム「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」における「アジア版エラスムス・パイロット計画」は、アジア・欧米のパートナー拠点との連携により、次世代研究者²⁸と教員の相互交流を恒常的に行い、共同で教育研究指導を行う体制のもと、

²⁷ 京都大学グローバル COE プログラム「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」
http://www.gcoe-intimacy.jp/staticpages/index.php/Profileofthecenter_ja (2009年2月28日アクセス) を参照し記述した。

²⁸ 次世代研究者とは、博士課程在籍者、博士課程修了者、研究員、助教などの若手研究者を指す。京都大学グローバル COE プログラム「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」リーダー、京都大学大学院文学研究科教授、落合恵美子氏のコメントによる。(2008年12月9日聞き取り調査実施)

アジア的視点と欧米的視点を兼ね備えた人材を育成することを目指している²⁹。

2009年1月時点での海外パートナー拠点は、ソウル国立大学（韓国）、北京外国語大学（中国）、国立台湾大学（台湾）、ベトナム社会科学院（ベトナム）、国立フィリピン大学（フィリピン）、チュラロンコーン大学（タイ）、タマサート大学（タイ）、デリー大学（インド）、トリブバン大学（ネパール）、ストラスブール大学（フランス）、ユバスキュラ大学（フィンランド）、ストックホルム大学（スウェーデン）、トロント大学（カナダ）の13拠点である³⁰。「アジア版エラスムス・パイロット計画」では、これらの拠点との間で、教員及び次世代研究者の交換交流を行い、さらに、若手研究者を対象とした国際研究ワークショップを開催するなど、若手研究者間のネットワークの構築を促進し、若手研究者の共同研究を促進する試みがなされている。これらの取り組みを通して、グローバルCOEプログラム実施期間中に、海外パートナー拠点と相互に協定を締結し、国際連携大学院の形成を図るとしている³¹。

以下、「アジア版エラスムス・パイロット計画」における人的交流プログラム及び、本プログラムにおける教育研究指導制度の具体的内容について見ていきたい。

(1) 「アジア版エラスムス・パイロット計画」における教育研究交流

「アジア版エラスムス・パイロット計画」では、次世代研究者派遣と招聘、教員派遣と招聘の4つの教育研究交流プログラムが実施されている。

①次世代研究者の派遣・招聘

「アジア版エラスムス・パイロット計画」では、一人の学生（或いは若手研究者）が、アジアと欧米の両方に留学し、アジアと欧米の双方の視点から、「親密圏と公共圏の再編成」に関連にする研究課題に取り組むことを推奨している。そうすることにより、アジアと欧米を繋ぐ次世代研究者のネットワークが構築されることが期待されている。

²⁹ 京都大学グローバルCOEプログラム「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」
http://www.gcoe-intimacy.jp/staticpages/index.php/Profileofthecenter_ja（2009年2月28日アクセス）

³⁰ 京都大学グローバルCOEプログラム「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」海外パートナー拠点 http://www.gcoe-intimacy.jp/staticpages/index.php/satellites_ja（2009年2月28日アクセス）

³¹ 京都大学グローバルCOEプログラム「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」
http://www.gcoe-intimacy.jp/staticpages/index.php/Profileofthecenter_ja（2009年2月28日アクセス）

次世代研究者派遣プログラムの応募資格は、グローバル COE プログラムの基盤となる京都大学大学院の 6 研究科および 2 研究所（文学研究科、法学研究科、教育学研究科、経済学研究科、農学研究科、人間・環境学研究科、人文科学研究所、地域研究統合情報センター）にて研究に従事している、大学院博士課程在籍者、博士課程修了者等の次世代研究者である。派遣先は、グローバル COE プログラムが提携している海外パートナー拠点大学・研究機関、あるいは応募者が希望する海外の大学・研究機関である。派遣先を現時点での海外パートナー拠点のみに限定するのではなく、応募者の希望に基づき自由に留学先を選ばせることにより、提携先を拡大していこうという意図があるとのことである³²。なお、海外パートナー拠点大学とは、京都大学との間に大学間交流協定を締結しており、希望者は、協定の枠組みを使って留学することも可能である。その場合は、授業料不徴収となるほか、グローバル COE の支援と併用することも可能である。派遣期間 3 ヶ月以上 12 ヶ月以内とし、往復の航空運賃、および滞在中の滞在費の一部が支給される。これらの補助に加えて、プロジェクトベースの研究助成制度が設けられており、審査の結果採用されれば、研究費が支給されることとなっている³³。この研究助成制度を使って、京都大学と海外パートナー拠点の次世代研究者が国際共同研究に取り組むなど、次世代研究者のネットワーク構築という面からも、効果が見られるとのことである³⁴。

次世代研究者の招聘は、基本的に派遣と対をなす形で進められている。応募資格は、グローバル COE プログラムの海外パートナー拠点である大学・研究機関等で、研究に従事している大学院博士課程在籍者、博士課程修了者、研究員等の次世代研究者で、招聘元は、先に述べた本プログラムの基盤となる京都大学大学院の 6 研究科および 2 研究所である。招聘期間は、3 ヶ月以上 12 ヶ月以内で、往復の航空運賃、および滞在中の生活費の一部が補助される。また、大学間協定の枠組みを使って、京都大学に留学することも可能であり、派遣と同様、授業料不徴収、グローバル COE の支援との併用も可能である。

「アジア版エラスムス・パイロット計画」で派遣・招聘される次世代研究者は、それぞれ留学先で、受け入れ教員の指導の下、留学先の学生や研究者とともに、研究課題に取り組む。なお、先に述べた通り、「アジア版エラスムス・パイロット計画」では、次世代研究

³² COE プログラム「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」リーダー、京都大学大学院文学研究科教授、落合恵美子氏のコメントによる。（2008 年 12 月 9 日聞き取り調査実施）

³³ 同上

³⁴ 同上

者の派遣・招聘とともに、専任教員レベルの研究者の派遣・招聘を行っており、これらの教員も、「アジア版エラスムス・パイロット計画」で派遣・招聘される次世代研究者に対する教育を一部担当している。

②専任教員の派遣・招聘

「アジア版エラスムス・パイロット計画」では、グローバル COE プログラムの基盤となる 6 研究科および 2 研究所と海外のパートナー拠点との間で、専任教員の派遣・招聘を行っている。派遣・招聘される教員は、それぞれ受け入れ大学において、グローバル COE のプログラムに則った教育・研究に従事する。なお、教員の派遣・招聘期間は、最長 3 ヶ月となっているが、これは所属先を長期間離れることが難しい専任教員のスケジュールに配慮したものである³⁵。京都大学では、海外のパートナー拠点から、1 年間に複数の教員を入れ替わりで受け入れており、これらの招聘教員とともに国際共同研究を進めている。同時に、招聘教員は、京都大学において、グローバル COE プログラムの趣旨に沿った、特別講義を担当し、学生の研究指導にも従事する。

③ 教育研究の使用言語

グローバル COE プログラム「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」の拠点リーダー、京都大学大学院文学研究科、落合恵美子教授によると、本プログラムでは、教育研究の共通言語として英語を基本としながらも、日本語、中国語、韓国語を中心に多言語を使用しているとのことである³⁶。これは、本グローバル COE プログラムのテーマである「親密圏と公共圏」について研究を進めていく上で、家族関係に関する事項が取り扱われるが、アジアの家族関係については、英語の語彙で表せない表現が多々あり、必然的に研究対象であるアジアの言語が使われるとのことである。また、落合教授は、中国を筆頭に、韓国、日本、ベトナムなど、漢字文化圏の研究については、国際共同研究を進めて行く上で、漢字を媒介として、共通理解が得られ、研究が深まることが多々あると述べ、アジアを対象とした社会科学の研究分野において、英語のみを共通語とすることに限界があると指摘し

³⁵ 京都大学グローバル COE プログラム「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」リーダー、京都大学大学院文学研究科教授、落合恵美子氏のコメントによる。(2008 年 12 月 9 日聞き取り調査実施)

³⁶ 同上

ている³⁷。研究成果の発表についても、英語と日本語での刊行を基本とし、中国語、韓国語、タイ語など他のアジア諸言語を併記する他言語的編集がなされるとのことである³⁸。

④単位互換の取り扱いに関する課題

「アジア版エラスムス・パイロット計画」における教育は、博士課程生、あるいはそれ以上の若手研究者を対象として行われるため、いわゆる単位取得を目的とするコースワーク主流の教育ではなく、国際共同研究の枠組みで、ゼミ形式の授業や、研究指導がなされることを想定している。このような教育形態は、コースワークが中心ではない日本の大学院博士課程のシステムには適合するが、たとえば韓国では、ドクターレベルにおいても、コースワークが重視されており、研究指導を重視する日本の大学院システムと大きく異なる。そのため、「アジア版エラスムス・パイロット計画」において、単位互換をどのように取り扱うのかという点が、課題として浮上している。現時点では明確な制度は確立されていないが、海外パートナー拠点との連携のもと、単位互換のシステム作りに取り組んでいるとのことである³⁹。今後、「アジア版エラスムス・パイロット計画」において、博士課程レベルの教育制度の違いをどのように乗り越え、単位互換の問題をどのように解決していくのか、引き続き注視していきたい。

3. アジア版エラスムス計画実現への示唆：社会科学系国際共同研究交流モデル

京都大学グローバル COE 「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」における「アジア版エラスムス・パイロット計画」は、若手研究者のイニシアティブによる国際共同ワークショップの開催など、アジアの次世代研究者のネットワークを育成する様々な取り組みがなされており、次世代研究者がワークショップ等で得られたネットワークを生かし、国際共同研究を推進することができるよう研究助成制度を設けられている。この一連の施

³⁷ 京都大学グローバル COE プログラム「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」リーダー、京都大学大学院文学研究科教授、落合恵美子氏のコメントによる。(2008年12月9日聞き取り調査実施)

³⁸ 京都大学グローバル COE プログラム「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」http://www.gcoe-intimacy.jp/staticpages/index.php/Profileofthecenter_ja (2009年2月28日アクセス)

³⁹ 京都大学グローバル COE プログラム「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」リーダー、京都大学大学院文学研究科教授、落合恵美子氏のコメントによる。(2008年12月9日聞き取り調査実施)

策は、アジア研究を担う次世代研究者間のネットワーク構築、国際共同研究の発展に極めて有効であり、本グローバル COE が目指す、『親密圏と公共圏の再編成』という課題解決に取り組む次世代の人材育成」を具現化する優れたシステムであると考え。また、英語を共通語としながらも、アジアを対象とした社会科学系の研究に不可欠である多言語による教育研究が行われている点も、本プログラムの特徴的な点として挙げておきたい。文部科学省が打ち出している留学生 30 万人計画では、特に学部レベルにおいて英語を共通言語とし、日本語の障壁を取り払った教育を推進しているが、本グローバル COE プログラムのように、アジアを研究対象とした、社会科学系の学問分野においては、研究の深化に「多言語」を使用することが必要不可欠であると考え。ヨーロッパのエラスムス計画では、理念の一つに「ヨーロッパ市民意識の涵養」が挙げられているが、アジア版エラスムス計画において、「アジア市民意識の涵養」を目指すのであれば、まず、アジアそれぞれの地域の多様性に対する正しい理解を促進することが重要であると思われる。そのためには、「英語」での教育・研究にこだわるのではなく、本グローバル COE が採用しているように、「多言語」での教育・研究の推進が、社会科学系の分野においては、最も適した形態であるのではないと思われる。京都大学グローバル COE プログラム「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」における「アジア版エラスムス・パイロット計画」は、アジアを研究対象とした社会科学系の優れた次世代研究者育成のための交流モデルであると考え。「アジア版エラスムス・パイロット計画」は、その名の通りアジア版エラスムス計画の実現に、多くの示唆を与えものであり、このような優れた人材育成プログラムが 10 年、20 年と継続して実施され、アジア研究を担う次世代研究者が世に送り出されることを切に希望する。

謝辞：

本報告をまとめるにあたり、京都大学グローバル COE プログラム「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」リーダー、京都大学大学院文学研究科落合恵美子教授、京都大学大学院文学研究科伊藤公雄教授、京都大学西村周三副学長には、詳細について快くインタビューにお答えいただき、また貴重な資料をご提供いただいた。この場を借りて、深く御礼申し上げたい。

および、以下のページを参考にした。

2007 年度（平成 19 年度）現代的教育ニーズ取組支援プログラムまとめ

－英語が使える日本人の育成「Student Mobility の推進」－

<http://www.apu.ac.jp/apuint/modules/sitecontent/content/2007GPreport.doc>